



内閣総理大臣 福田康夫 様
文部科学大臣 渡海紀三朗 様

沖縄戦「集団自決(強制集団死)」をめぐる 教科書検定意見の撤回を求めます

沖縄戦の歴史事実を歪曲する教科書検定意見に対して、9月29日、沖縄で「教科書検定意見撤回を求める県民大会」が開かれました。「日本軍による強制集団死の削除にNo!」の強い思いをもって会場にかけつけた宜野湾・宮古島・石垣島はじめ各地からの11万6千人もの人びとの声に、私たち日本YWCAは賛同と連帯を示すと共に、教科書検定に政治的に介入し、戦争の歴史を美化しようとする日本政府に対し、強く抗議します。

沖縄戦を体験した多くのおばあやおじいたちは、生き残った自分たちの証言を誤りとする教科書検定意見に、居ても立ってもいられない思いで会場へ駆けつけました。また、その体験を聴いて育った多くの子どもたちを代表して発言した二人の高校生の、「ウソを真実といわないでほしい。あの醜い戦争を美化しないでほしい。たとえ醜くても事実を知りたい。学びたい。そして伝えたい。」という訴えを、日本政府は真摯に受け止めてください。政府が当事者の真実の証言を隠蔽し、一方で子どもたちの「事実を学ぶ」権利を奪い、「伝えたい」という平和を願い行動しようとする純粋な想いを潰すことなど、決してあってはならないことです。

日本YWCAは、これまで「ひろしまを考える旅」などを通して、韓国・中国YWCAと交流を深めてきました。その中で実感することは、真実の歴史の共有をなしにして和解は生まれないということです。歴史を知り、相手の痛みを学び、想像し、共有する、それが和解への第一歩だということを、私たちはくりかえし確認してきました。だからこそ、未来を担う子どもたちが歴史を学ぶため使う教科書の記述を歪曲してはならないのです。

文部科学省は、教科用図書検定調査審議会が決定したことであり、政治介入にならないようにとの理由で、撤回に難色を示し、また、教科書会社に責任を転嫁し、教科書会社からの訂正申請で事を収めようとしています。しかし、沖縄県民や私たちが日本政府に求めるのは、検定意見の撤回です。検定の間違いを認め、間違いを正す制度をつくって検定意見撤回に向けて早急に動き出すよう、強く要請いたします。

2007年10月19日

日本キリスト教女子青年会(日本YWCA)
会長 石井摩耶子
総幹事 川端国世